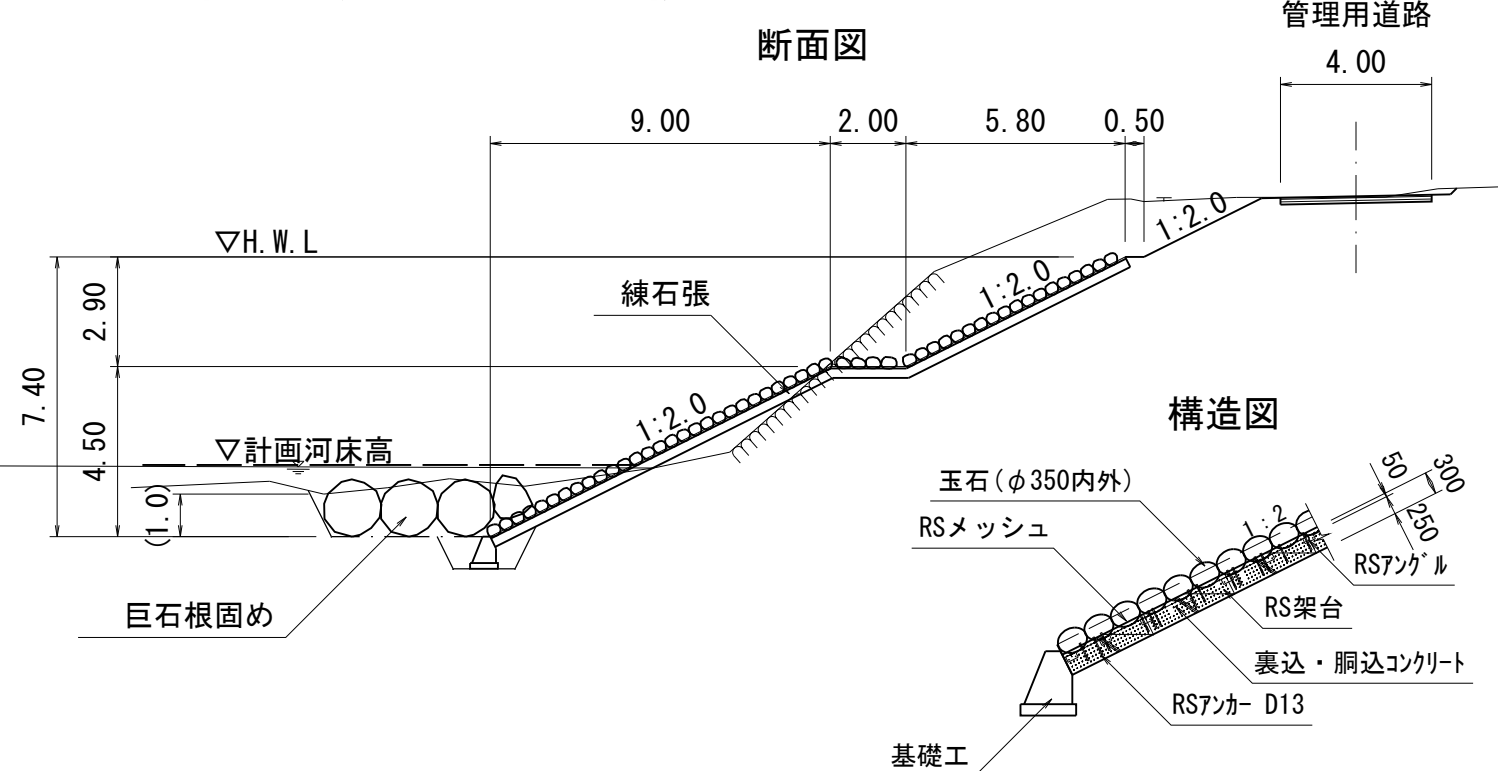


# 中橋下流整備計画概要図

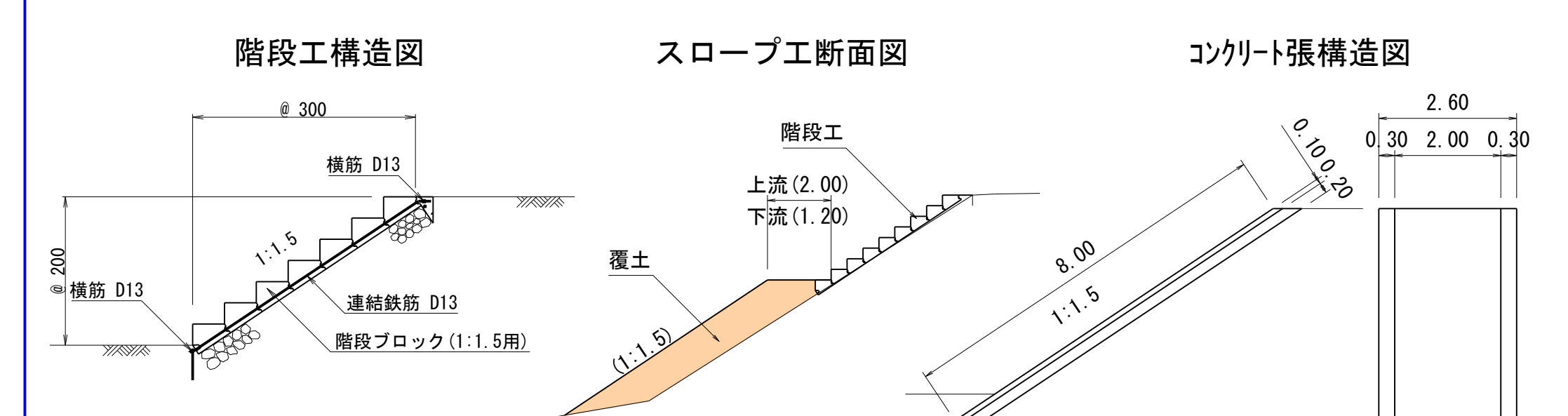
## ③護岸工

- ・護岸未整備区間 (L=64m) の護岸工を整備。
- ・工法は上下流の構造物の馴染みをよくし、景観に配慮した練石張 (ラウンドストーン) を採用。
- ・小段を設け、通路の連続性を確保。



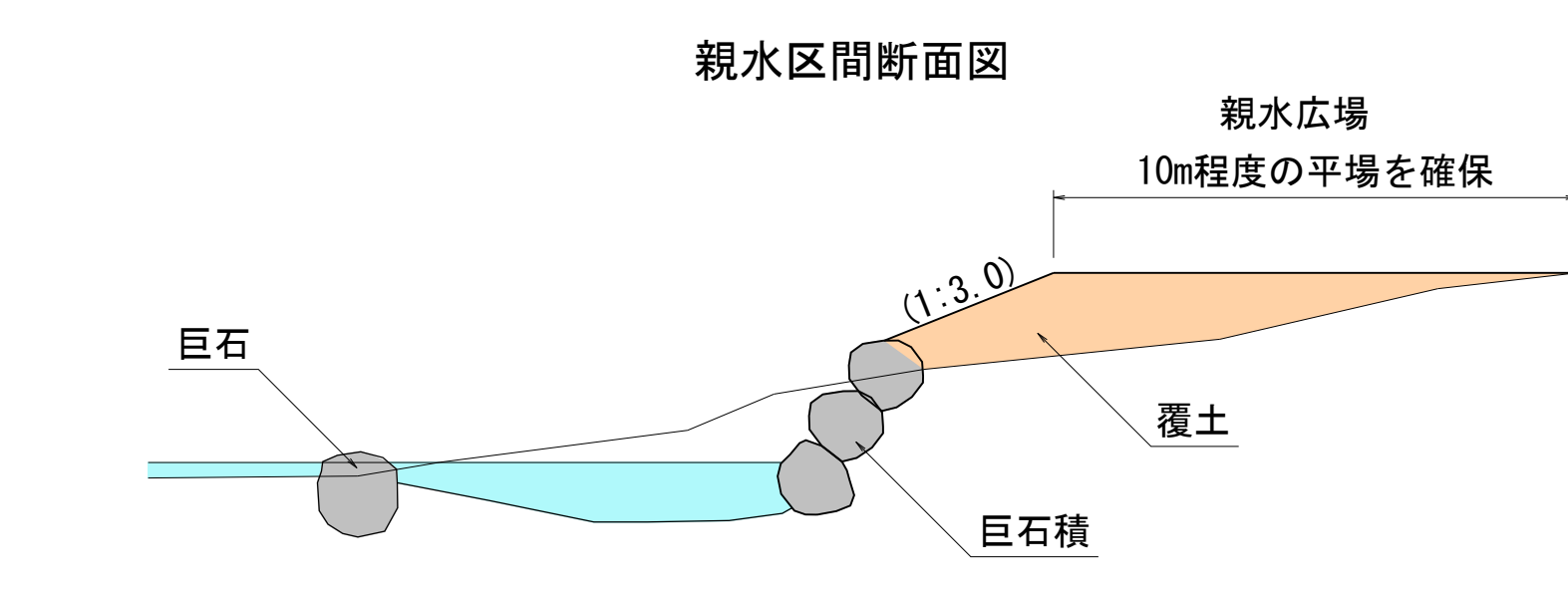
## ⑦付帯施設工

- 親水区間へのアプローチ空間の整備。
- ①階段工の設置
    - ・護岸天端から親水広場へアプローチできる階段工の設置。
  - ②スロープの設置
    - ・子供からお年寄りまでの多くの人が、容易にアクセスできるスロープを2箇所設置。
  - ③遊びの施設
    - ・例えば子供が滑り台として遊べる施設として、護岸の一部をコンクリート張に改良。



## ⑦親水区間の創出

- ・現況地形を生かしながら親水広場を設ける。
- ・水辺に近づきやすい緩勾配の低水河岸。
- ・親水空間としての「たまり」の形成。



帯工計画位置から下流の高水敷は通路幅7m程度を確保するとともに現況の河畔林を維持管理する。

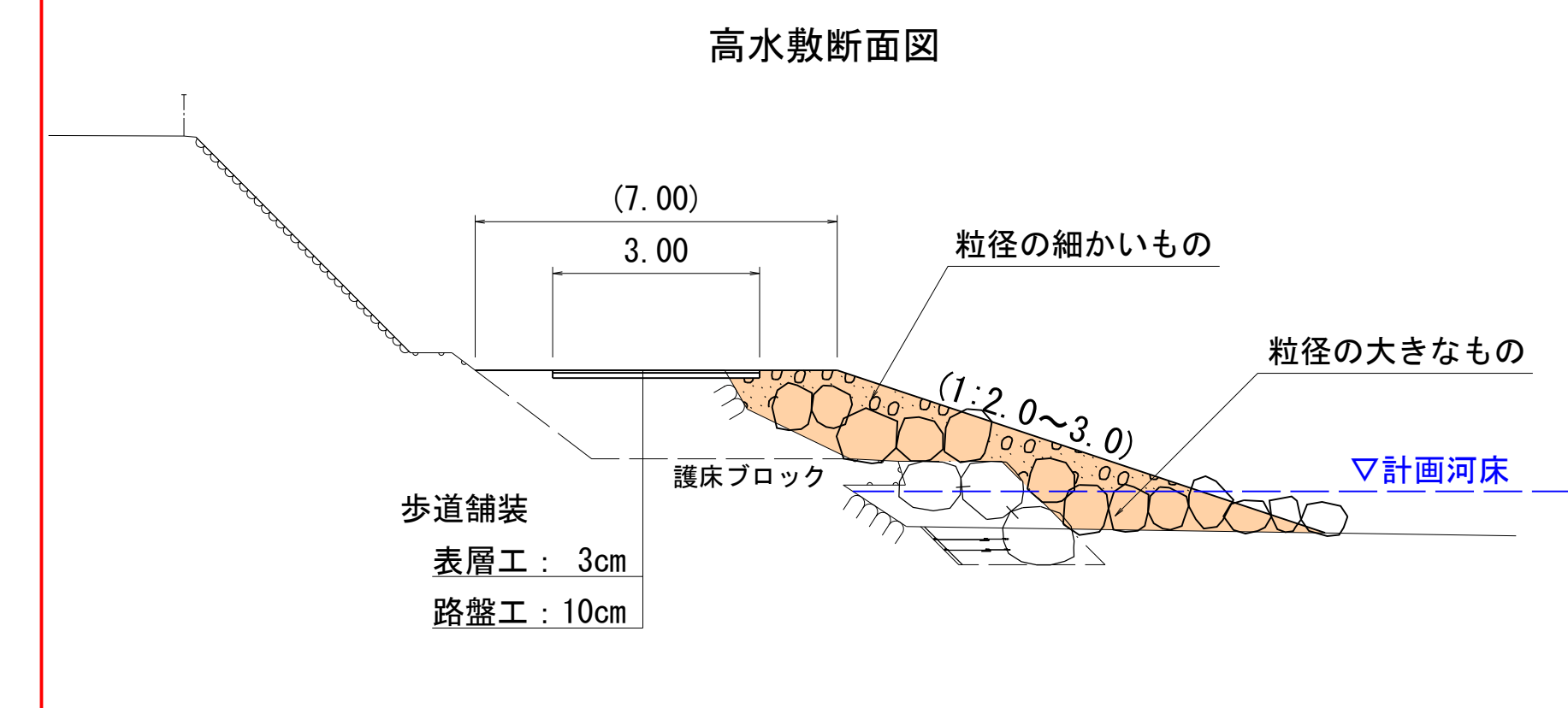
かぐらの湯

流向を右岸側に向け、中橋直上流で河道全域に水をいきわたらせる。

水を真ん中に集め淵を形成

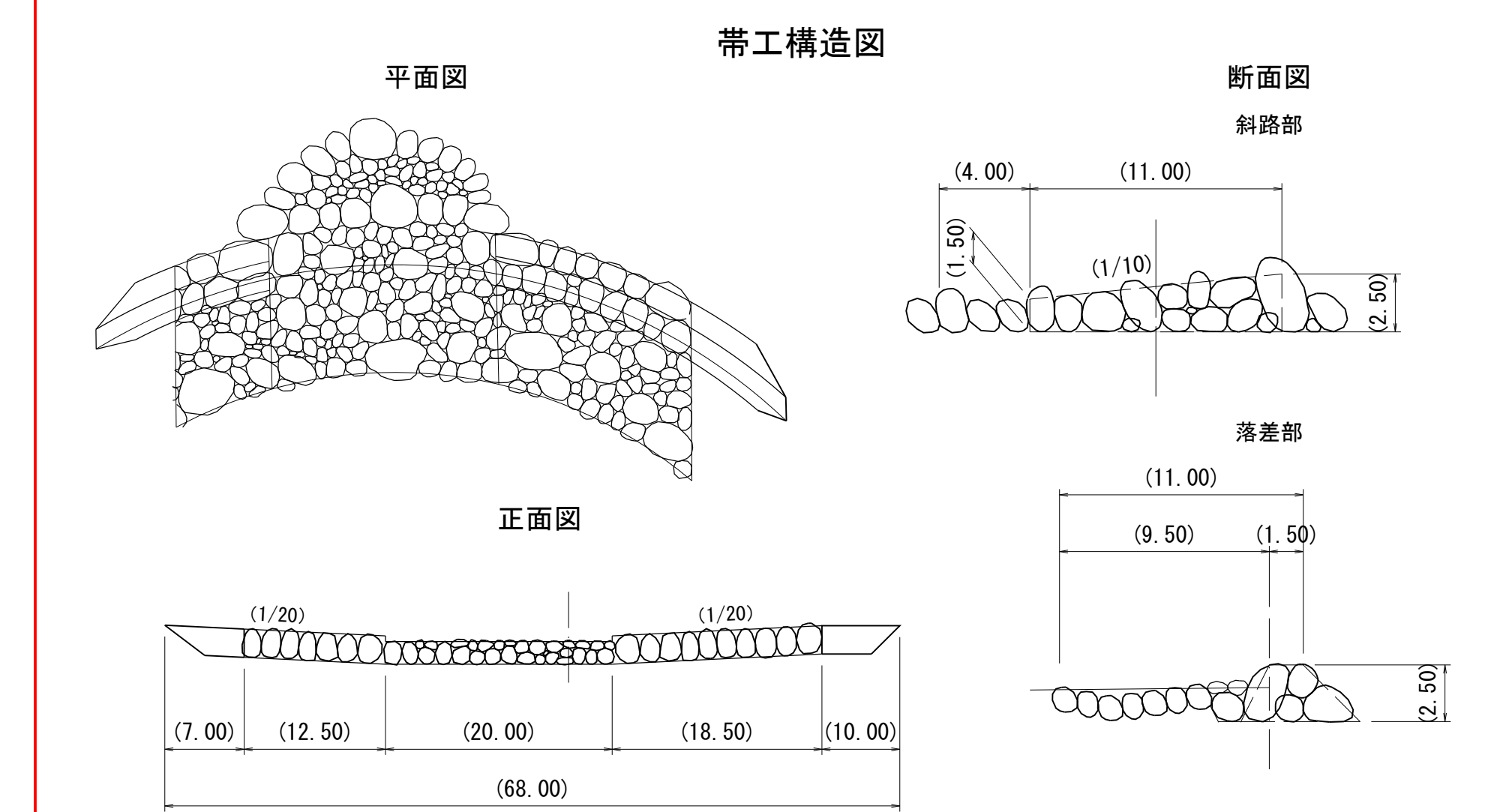
## ④高水敷の整備

- ・南信濃自治振興センターからヘリポートまでの河川空間の活用、防災機能としての通路を確保。
- ・水辺に近づきやすい低水河岸を創出のため、緩やかに覆土。



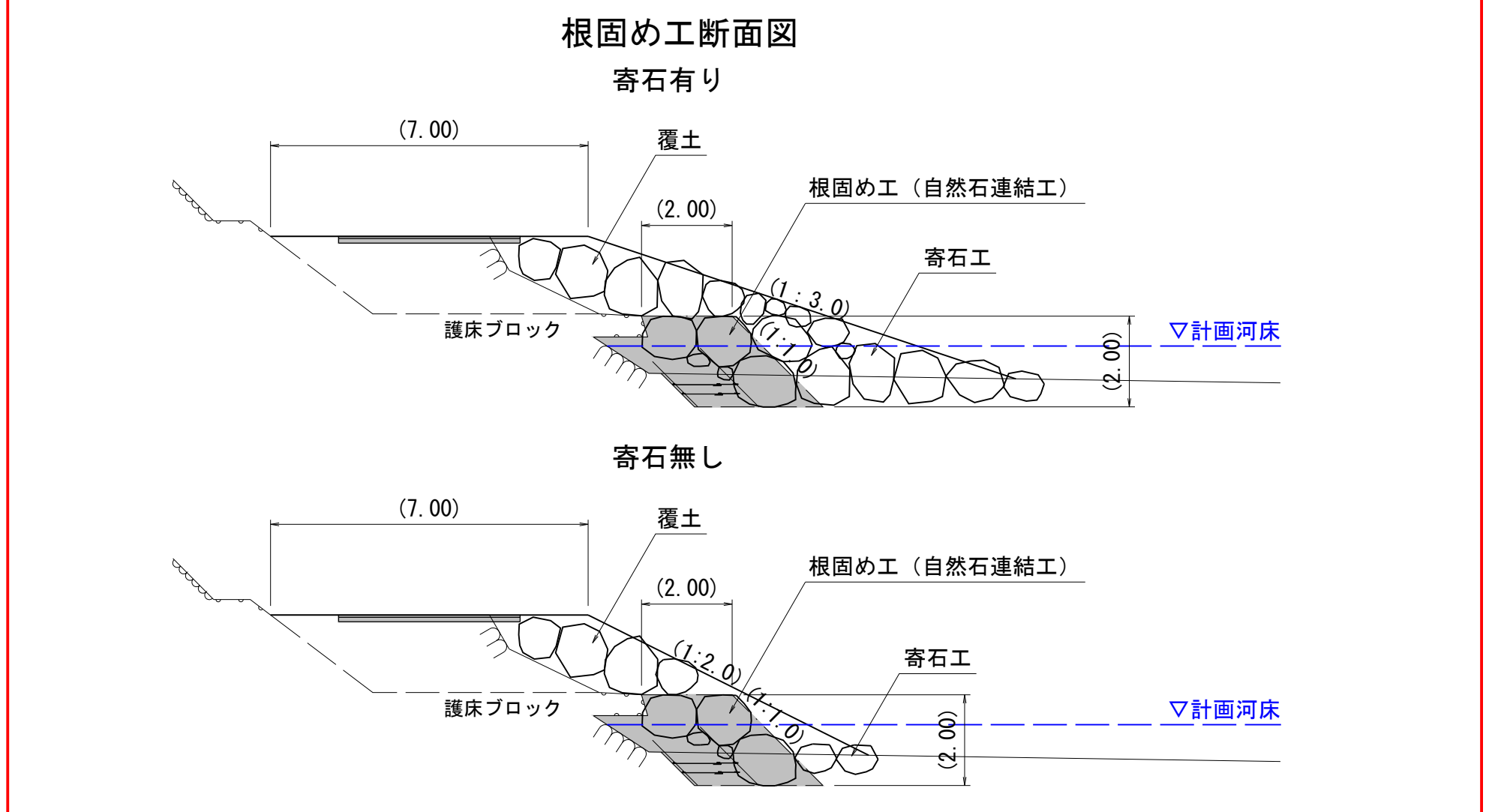
## ①帯工

- ・河床の安定と落差の解消、上流の河床回復を図るための帯工を設置。
- ・自然石連結工法により、景観と魚類の遊上にも配慮した構造とする。



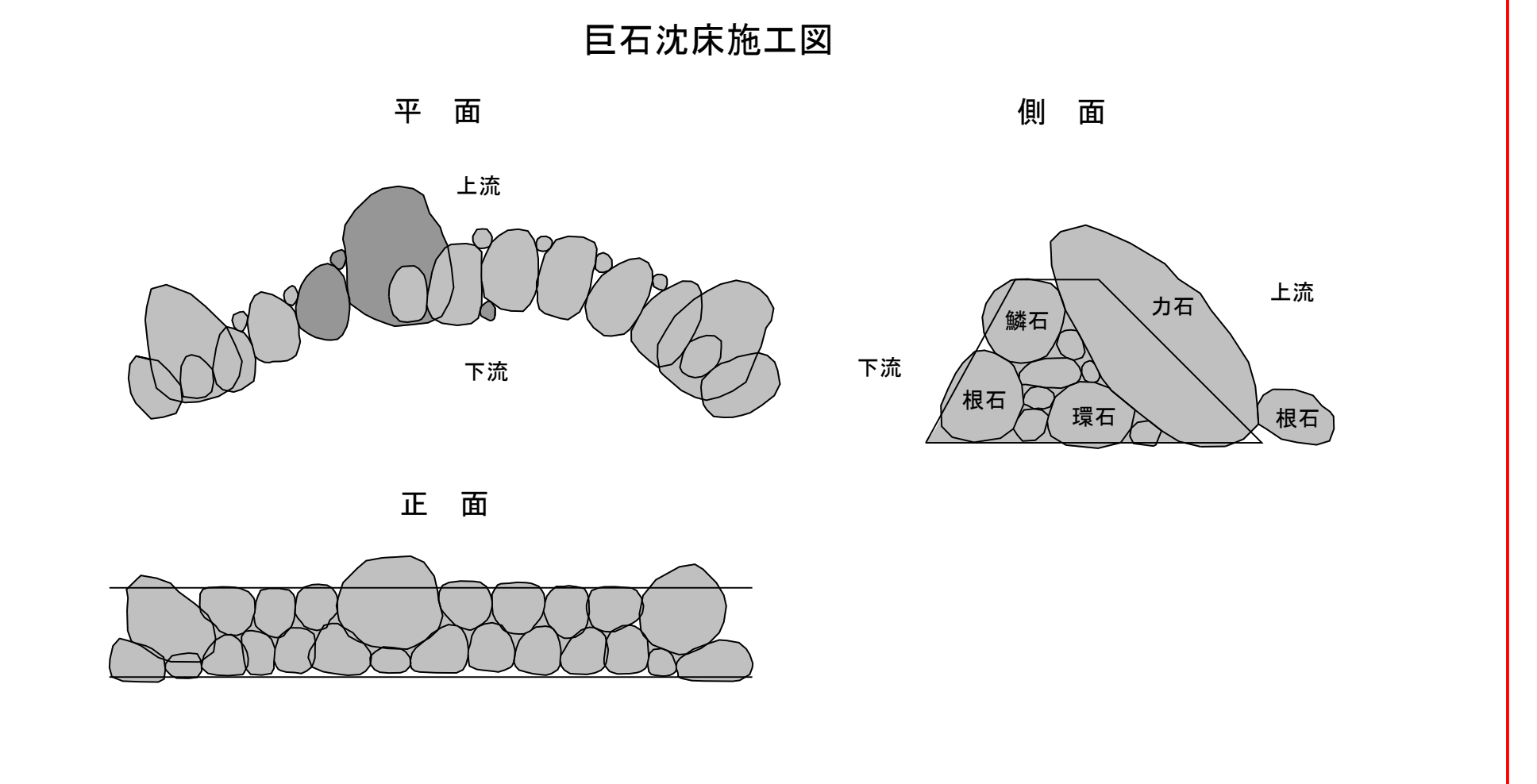
## ②根固め工

- ・露出している根固ブロックを保護するため、自然石連結工法による根固め工を施工。
- ・水際の入り組みと土砂の堆積を促すための寄石を設置。



## ⑥巨石沈床工

- ・自然な河床を誘導するための巨石を設置。



## ⑤水制工

- ・左岸に寄りたみお筋を河川全体に分散させるための水制工を設置。
- ・構造は自然石連結工法とし、表面は覆土する。

